

～医療生協健文会の職員のみなさま～

メロス通信 不定期便



Vol.01

2022年11月号

発行：地域福祉室

<ご挨拶>

昨年11月16日に地域福祉室が開設され1年を経過しようとしています。そこで人と人の交流を通じた地域の組合員さんの活動や患者さん、各事業所の取り組みを地域福祉室の活動と共に紹介する「メロス通信不定期便」を発行することにしました。

また地域福祉室の発足後に立ち上げられた、「**県連ソーシャルワーク委員会**」での気になる情報もお伝えできたらよいと思っています。

外来カンファレンス絶賛開催中！



お昼の休憩時間に放送は耳にされているでしょうが、外来コピー機のそばで毎週火～金曜日13時30分からの10分間、気になる患者さんの外来カンファレンスを実施しています。

職員なら誰でも参加OKです。組合活動支援部、あおば薬局、協立歯科、リハステップげんき、在宅支援センター等、今まで病院以外の職員さんに参加してもらってきました。

誰をカンファレンスするかはそのとき次第、気軽に気になる患者さんがいらっしゃればどうぞご紹介ください。たった10分ですが多職種が集まることで大変意義のあるカンファレンスになります。

現在ここには外来医事課が熱心に参加してきてくれます。患者さんの生活困窮の背後にあるものを感じとっています。まだ、人生経験が少ない若い事務職員さんたちが小さくちょこんと参加している姿が初々しい。

みなさんお気軽にご参加ください。



*カンファレンスの風景

様々な情報を発信しています。
自らの安全の為に是非、
参加しましょう！



*野田先生
より一言

無料低額診療事業の Aさん親子の食材支援

無料低額診療は生活保護には満たない生活困窮者についてご本人が支払う医療費を低額または無料で提供する福祉事業です。民医連全体でも取り組んでいる事業所は半分ほど。健文会は宇部・山陽小野田地域唯一の無料低額診療実施医療機関になっています。

夫と離婚して母子家庭になったAさんは病気の娘と二人で過ごしてきました。娘さんは成人しても病気のためアルバイト程度の仕事しかできません。頑張っただけを支えてきたAさんも60歳を越えいつまで働けるか分からないと不安を感じています。そんなとき無料低額診療に救われました。

家計の状況をうかがうと収入は生活保護基準以下です。それでも生活保護を受けないのは娘さんが車をもってらっしゃるからです。生活保護でも就労のためなどの理由で一時的に車を所持することは許されますが期限付きです。

Aさんはこう言います。「娘は車で出かけることくらいしか楽しみはないから、いつかは手放して生活保護にならないといけないと娘には言っているが、私が働けるうちは思うようにしてやりたい」

そこで少しばかりではありますが月1回の食料支援を行うことにしました。たった1回でも生活の助けになるとAさんはとても喜んでくれます。

「今ある人生を少しでも実りある豊かなものに」というのは医療介護の柱です。できることは小さくても「誰かが自分を見守ってくれている」ということが大きな安心感につながります。定期的な面談でAさん親子を見守り、地域で孤立しないために組合活動につなげられるとよいと思っています。

県連ソーシャルワーク委員会報告

友永師長からの重要な問題提起がありました。県内に先駆けて宇部市では若年がん患者在宅支援事業を実施していますが山陽小野田市ではそれがなく、コロナ禍で最期を在宅で過ごす若い末期がん患者が増えているのに介護保険も使えず困っているとのことでした。

ソーシャルワーク委員会ではそのことを取り上げ廣田先生の小野田市医師会への働きかけもあって来年度より山陽小野田市でも同事業が行われる見込みです。

このようにソーシャルワーク委員会では個別支援と社会を変える活動に取り組んでいます。

～みなさまへのお願い～

ご家庭にある**有休品**、余っている**食料**、使わなくなった**家電**など生活困窮者支援に使えそうなものをお持ちいただけますか。**カンパ**も受け付けています。内線580・田中までご連絡ください。



*外来、園看護師・穠本看護師から頂いた布団をお届けしています。



*3階病棟に入院していたKさんの引越しを手伝ってくれた組合員さんです。